



自然災害との共生と豊穡の大地の物語

# 栗駒山麓ジオパークだより 115

問ジオパーク推進室

☎(24)8836

ファクス(45)5936



## 栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」

第5回募集で新たに認定した「栗駒山麓のめぐみ」から、栗駒地区文字の地域おこしを担う「栗駒山麓行者にんにく農園」を紹介します。

### ●行者ニンニクとは

行者ニンニクは、山岳で修行を行う修験道の行者が滋養のために食べたことから、その名が付いたといわれています。地下茎の肥大部を食べる通常のニンニクと異なり、主に新芽が食材として利用されます。通常のニンニクよりさらに強い香りと、滋養が強すぎて行者が修行にならず、食べることを禁じられたと言い伝えられるほどの高い栄養価が特徴です。

### ●ニンニクで地域おこし

栗駒山麓でも、かつて行者ニンニクは自生していましたが、一度採りつくされてしまったことで「幻の山菜」とよばれてきました。しかし、平成20年岩手・宮城内陸地震で大きな打撃を受けた栗駒地区文字の限界集落化を打開するため、かつて栗駒山麓に自生した行者ニンニクを地域の産業にしたいという思いから、休耕田を利用して栽培を始めました。

行者ニンニクは、生育期間が7年と長く、収穫期間はわずか3週間という手がかかる食材ですが、近年は、安定して栽培できるようになり、加工品の開発や直売所での販売も進められてきました。

このような背景から、栗駒山麓の行者ニンニクは、単なる農産物ではなく、災害からの復興、集落の再生といった、地域づくりを象徴する特産品となっています。

栽培を希望する人には、苗の販売や栽培方法の説明もしています。

行者ニンニクは栗駒山麓のめぐみに認定されている醤油漬、

醤油麹煮、ソーセージ、オイルなどの加工品をはじめ、多様な料理で堪能できます。栗駒山麓ジオパーク主催のイベントの他、市内各地の店舗で販売をしています。栗原の新しい特産品「行者ニンニク」をぜひ、味わってください。



▲栗駒地区文字にある農園



◀行者にんにく醤油漬と醤油麹煮

行者にんにくソーセージとオイル▶

## 新緑あふれる世界谷地を歩きませんか

世界谷地でガイドツアーイベント「ジオガイドと歩く世界谷地原生花園散策」を開催します。ニッコウキスゲをはじめ、初夏の花が見頃を迎える季節です。ぜひ、お越しください。

●日時 6月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日) 午前9時～午後1時30分

●案内時間 1時間15分程度

●参加方法 予約不要です。当日世界谷地駐車場に設営するテントにお越しください。

●費用 1人1,000円

※天候などにより中止する場合があります。

※詳しくは、栗駒山麓ジオパーク公式Facebookで確認してください。



いっしょにやっぺし! Group 90

## 栗駒GOZA-in踊り子隊

私たちは、市内外のイベントで活動するよさこいチームです。練習は毎週金曜日の午後7時30分から午後8時30分まで、栗駒みちのく伝創館で行っています。

よさこいは戦後復興の願いを込め、昭和29年頃に高知県で誕生し、平成初期には大きなブームが起こり全国へ広まりました。当チームは平成12年に結成し、当時は80人以上の隊員で鳴子の音を響かせました。

その後、2つの震災やコロナ禍で解散の危機もありましたが、昨年2歳から小学6年生までの9人が入隊しました。新たなエネルギーが加わり、現在は総勢37人で、ますます元気に活動しています。

練習の成果は「くりこま山車まつり」をメインに、初夏から秋にかけて市内外のイベントで披露しています。

見学、入隊をお待ちしています。

問栗駒GOZA-in踊り子隊 平田

☎(45)1021

※市内で活動する団体の情報をお寄せください



## みんなで としょかん

市立図書館 ☎(21)1403

【開館時間】

●火～金曜日:午前10時～午後6時

●土・日曜日:午前9時～午後5時

【休館日】

●毎週月曜日、祝日(月曜日が祝日の場合、その翌日も休館)



### お知らせ

#### ●読み聞かせボランティア募集

市立図書館では、毎週土曜日に開催している「おはなし会」で、職員と一緒に絵本の読み聞かせや手遊びなどをするボランティアを募集しています。

初めての人も大歓迎です。子どもたちと一緒に絵本を通して楽しい時間を過ごしませんか。

興味のある人は、市立図書館まで問い合わせください。

※未成年の人は、保護者の承諾が必要です。



### 情報交換プラザ展示

## 「宮城県漁具図解及び略解」

期間 6月6日(土)～21日(日)

※個人・グループ活動の発表をしてみませんか。無料で利用できます。

## 今月のおすすめ本



### 豆は煮えたか

朝井 まかて 著 文藝春秋

お玉は、深川の水茶屋ささげやの女主人。亭主を亡くしてから名物豆餅の味は下がり閑古鳥が鳴く毎日だが、お玉には裏の稼業がある。掌を合わせると、少し先の未来が見えて…。占い×時代小説。



### だあれのめ?

accototo 著 文溪堂

おひさまを見ている、ねこ。地平線を見ている、きりん。空に浮かぶくもを見ている、りす…。「このめ、だあれのめ?」の問いかけでページをめくると、生き物たちが見ている優しい世界が広がる絵本。

※ブックる号、おはなし会の日程は、市内の情報カレンダーをご覧ください。